

東京医療学院大学 保健医療学部
2021年度 学校推薦型選抜入試 小論文

次の文章を読み、設問に答えなさい。

「QOL※が高いということ」

「生活の質」(=QOL) がさかんにいわれている。しかし、「どのような状態を QOL というのか」について合意されていないのが実態である。

この言葉は、元来、国(社会)全体の経済指標や GNP(国民総生産)などを社会の発展ととらえるマクロな視点に対して、個人の生活の質を重視する主張を根底に据えた社会学から登場してきた。この発想がまたたく間に医療へと波及し、はじめは癌の、とくに末期患者における疾病・治療重点主義から「生活」全体への視点切り替えのキーワードとなった。

QOL(=生活の質)という言葉から、何とはなしにイメージを描くものの、その本質ははっきりとはしていない。

私は、人間というものが「身体」「精神(心理)」「社会」を統合したものだから、それぞれにおいてよりよい状態が QOL のより高い生活だととらえている。

癌患者の QOL は、癌という致命的(身体的)疾病をもちながらも、精神心理的に心の安らぎや人生の充足度があれば、あるいは社会的に家族や友人、同僚との関係や家庭や職場での生活が円満であれば、QOL の高い生活といえよう。末期の除痛治療は、身体を媒介に「苦痛」を取り除き、心理的な安らぎを得ることで QOL に寄与する。

QOL の枠組みを身体・精神・社会の三要素でみていくことは、WHO の「健康」概念そのものである。この概念そのものは明らかに人間の存在の仕組みから成り立っている。

人間をつき詰めればこういうことになるが、この成り立ちに依拠したうえで展開される日々の生活において、その生活そのものが自由で主体性があるかどうか大切な要素になると考えている。

たとえば精神的側面からみた生活の「満足感」は、与えられた生活におけるそれよりも、自分から(主体的に)選りとる生活における満足感のほうが QOL は高いと考える。

寝たきりでも、庭に連れて行ってもらって花を楽しむことはできる。しかし行きたいときにそうするほうが、そうできる生活のほうが QOL は高いとはいえないか。

(竹内 孝仁 医療は「生活」に出会えるか より抜粋 医歯薬出版 1995)

※QOL : Quality of Life

【設問】

- 問 1. この文章で筆者が伝えたかったことを 250~300 字で述べなさい。
問 2. 筆者の考えに対するあなたの意見を 400~500 字で述べなさい。